

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	小山 憲司		
NAME	Kenji KOYAMA		

1. 研究課題

（和文）電子情報資源の普及に伴う大学図書館の対応と課題

（英文）Academic libraries and electronic resources in the digital age

2. 研究期間

2年間（2017・2018年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究は、学術情報の急速な電子化に伴い、大学図書館が電子ジャーナルや電子書籍などの電子情報資源を積極的に導入した結果、どのような効果がもたらされるか、またどのような課題が出、それにどのように対応しているかを、海外の事例をもとに調査、検討することを目的としている。

2018年10月にイギリスのシェフィールド大学、シェフィールド・アラム大学、およびJISCを、2019年2月にオーストラリアのアデレード大学、南オーストラリア大学、モナシュ大学、メルボルン大学をそれぞれ訪問調査した。その結果、いずれの大学においても電子情報資源の導入には積極的であった。また、これに合わせて、図書館の施設・設備を学生の電子情報資源利用、および学習スタイルに合わせて最適化するとともに、情報リテラシー教育にも重点を置いていた。他方、電子情報資源の導入に伴う冊子体資料の扱いには温度差があった。研究大学図書館では、図書館の学習空間を確保するために冊子体資料を電子資料に置き換える一方、冊子体資料の保存にも力を入れていたが、教育を主とする大学図書館では電子情報資源の提供に力点が置かれていた。

このほか、学術雑誌論文をはじめとするオープンアクセス資料の利用を促すための工夫も積極的に行われていた。

（英文）This study aims to examine how academic libraries cope with electronic resources in the digital age. The author conducted field surveys at some academic libraries in UK and Australia in 2018-2019 to investigate the impact of electronic resources on universities and libraries. This study confirmed as follows: (1)they introduce electronic resources positively, (2)at the same time, the library facilities and equipment are optimized according to the students' use of electronic resources and their learning style, (3)academic libraries also put emphasis on information literacy instruction.